資料－1

河川事業　再評価
阿武隈川総合水系環境整備事業

【説明資料】

令和6年12月12日

国土交通省　東北地方整備局
仙台河川国道事務所、福島河川国道事務所

阿武隈川総合水系環境整備事業再評価の流れ

（平成19年3月　阿武隈川水系河川整備計画　策定）

【平成21年度東北地方整備局事業評価監視委員会（第4回）】

平成22年1月　　事業再評価　阿武隈川総合水系環境整備事業

H22.3.31以前
再評価 5年毎

平成22年4月1日　公共事業評価実施要領改定　（再評価サイクル短縮等）

【第9回 阿武隈川水系河川整備委員会】

平成24年10月　　事業再評価　阿武隈川総合水系環境整備事業

H22.4.1以降
再評価 3年毎

（平成24年11月　阿武隈川水系河川整備計画　変更）

平成25年11月1日　費用対効果分析の効率化に関する運用

平成26年4月15日　費用対効果分析の効率化に関する運用

【第12回 阿武隈川水系河川整備委員会】

平成27年11月　　事業再評価　阿武隈川総合水系環境整備事業

平成30年3月30日　所管公共事業の事業評価実施要領の改定

平成31年3月　河川に係る環境整備の経済評価の手引きの改定

【第13回 阿武隈川水系河川整備委員会（前々回）】

平成30年11月　　事業再評価　阿武隈川総合水系環境整備事業

H30.3.30以降
再評価 5年毎

令和2年4月　治水経済調査マニュアル（案）の改定

【第14回 阿武隈川水系河川整備委員会（前回）】

令和2年12月　　事業再評価 阿武隈川総合水系環境整備事業

令和6年4月　治水経済調査マニュアル（案）の改定
令和6年4月　河川に係る環境整備の経済評価の手引きの一部改定

【第17回 阿武隈川水系河川整備委員会（今回）】

令和6年12月　　事業再評価 阿武隈川総合水系環境整備事業

令和6年度　東北地方整備局事業評価監視委員会において、本結果を報告予定

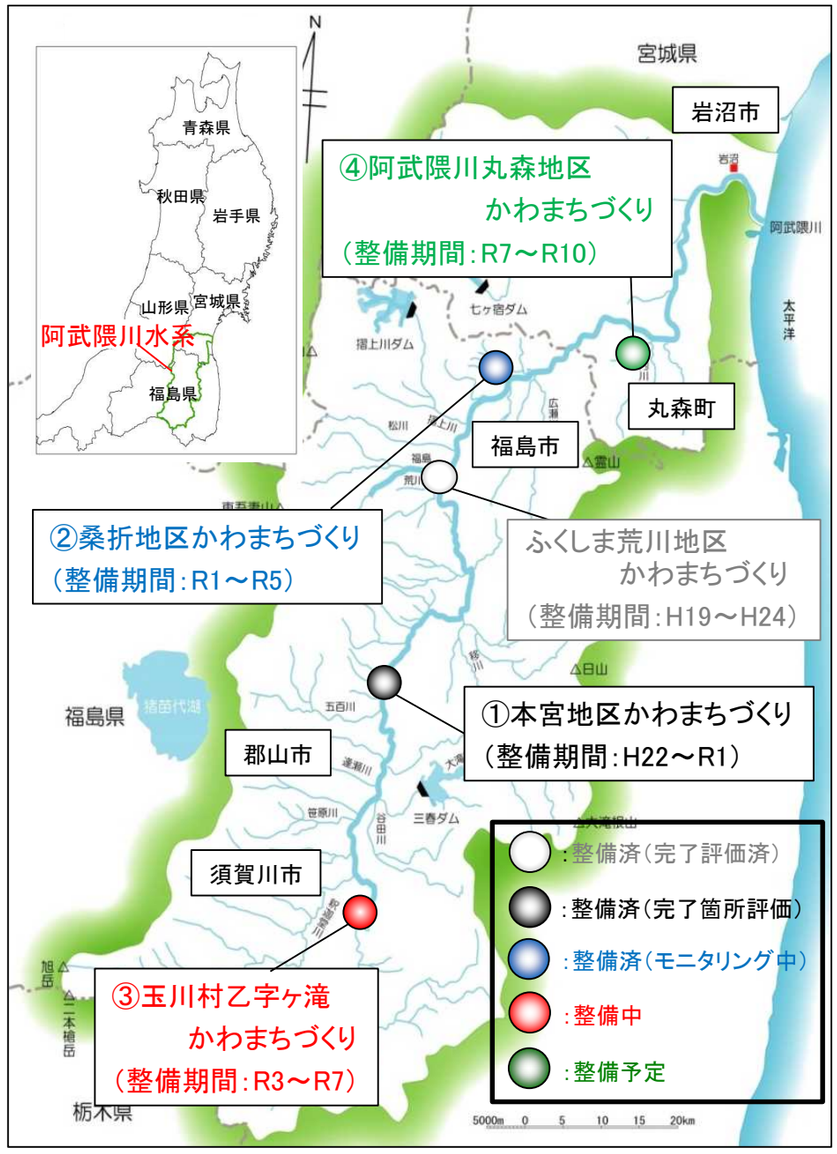
事業概要

【事業の目的】

- 多くの人々が様々な活動を展開できる良好な河川環境の創出、及び阿武隈川を軸とした地域間交流や参加･連携を積極的に促し、活力ある地域を目指すことを目的に水辺整備を推進します。

「阿武隈川水系河川整備計画」の基本理念に基づき、水辺整備に関する事業を実施

阿武隈川水系 河川整備計画 基本理念	○安全で安心が持続できる阿武隈川の実現 ○豊かで多様な自然環境の次世代への継承 ○阿武隈川を軸とした人･自然･社会の調和と活力ある地域の創造



【事業の概要】

■事業区間：阿武隈川（福島県石川郡玉川村･西白河郡矢吹町～宮城県岩沼市･亘理郡亘理町）
■事業期間：平成22年度～令和15年度
■整備期間：平成22年度～令和10年度
■全体事業費：約19.2億円（福島県 約10.2億円、宮城県 約9.0億円 ）※国のみ
■整備内容：水辺整備 3地区（福島県）、水辺整備 1地区（宮城県）

●各整備地区の整備概要と工程は下表のとおりである。

事業名	事業費［百万円］	整備内容	H19 2007	H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23 2011	H24 2012	H25 2013	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017	H30 2018	R1 2019	R2 2020	R3 2021	R4 2022	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030	R13 2031	R14 2032	R15 2033
○ふくしま荒川地区 かわまちづくり	293	管理用通路、看板設置、側帯、堰横断施設、高水敷整正									完了箇所評価			フォローアップ		フォローアップ													
①本宮地区 かわまちづくり	170	管理用通路、高水敷整正、階段、看板設置															モニタリング期間			完了箇所再評価									事業評価予定
②桑折地区 かわまちづくり	377	親水護岸、管理用通路、階段、坂路、高水敷整正、側帯																		再評価		モニタリング期間							
③玉川村乙字ヶ滝 かわまちづくり	470	管理用通路、坂路、親水護岸																		再評価			モニタリング期間						
④阿武隈川丸森地区 かわまちづくり	904	階段護岸、階段、坂路、側帯、管理用通路、高水敷整正																		整備予定箇所再評価				モニタリング期間					

前々回評価　前回評価　今回評価　次回評価予定

・上記は国土交通省の事業費を記載
・上記工程の赤字は今回の変更箇所を示す

：整備済箇所（モニタリング中）　：整備中箇所　：整備予定箇所（新規）
：整備中　：モニタリング中

整備済（完了箇所評価）

【水辺整備】 本宮地区かわまちづくり

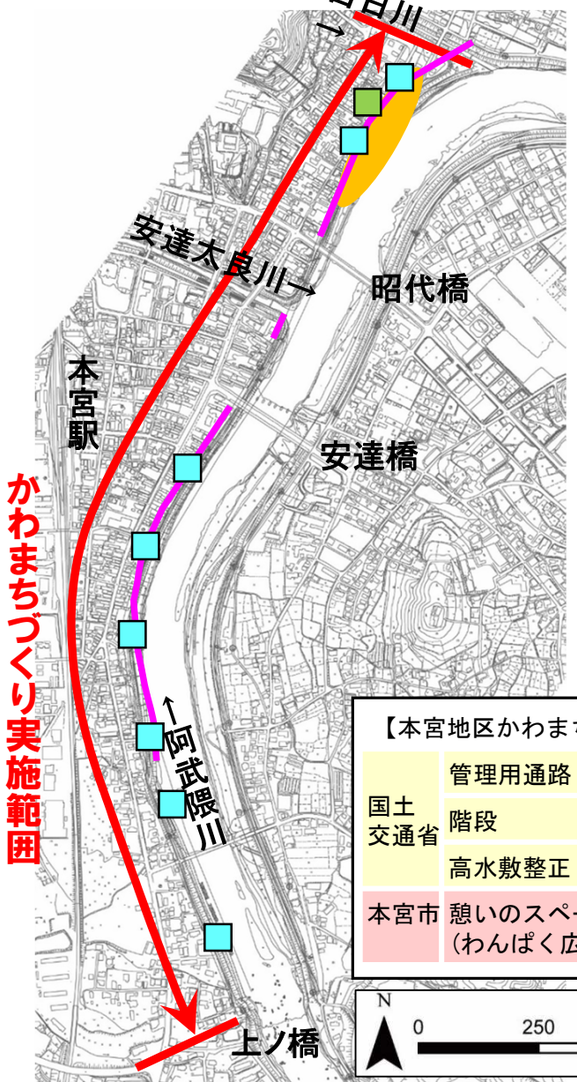
【事業の目的・内容】

《事業の目的》

- 本宮市の都市マスタープランでは、本宮地区の整備方針として、「本宮の中心地区にふさわしい、魅力と求心力のある中枢機能の整備、多様な都市機能の整備とともに、住み続けたくなる良好な住環境の整備を図る」を目標に、水・川との調和を図りました。
- 本宮市では河川改修事業と連携し、まちづくり交付金を活用した「街なか再生事業」が実施され、交流拠点施設の整備やアクセス道の整備等により回遊性ネットワークの形成などを進めました。
- 「本宮地区かわまちづくり事業」は、本宮市の取り組みと連携し、「まちと川を結ぶ」ネットワークを形成し、まちの魅力向上や、川とまちの交流の場としての河川空間の創出を行い、まちの活性化や観光振興を図るために実施しました。

《事業の内容》

	整備内容	
国土交通省	管理用通路（散策路）、階段、高水敷整正など	【事業費　170百万円（税込み）】
本宮市	憩いのスペース（わんぱく広場）	【事業費　10百万円（税込み）】











写真出典：福島河川国道事務所

整備済(完了箇所評価)　【水辺整備】本宮地区かわまちづくり

【事業の効果】

- 管理用通路や階段等の整備により、阿武隈川沿いの回遊性・安全性が向上し、河川利用が活性化されました。
- 阿武隈川の河川空間の利便性が向上したため、各種イベントが開催され、川とまちの交流の場としても活用されています。
- 阿武隈川へのアクセスが向上し、身近な自然環境に触れられる場、日常の健康増進に寄与する場として活用されています。

イベント

・毎年、8月に夏祭り、10月に秋祭りが開催され、3～5万人程度の集客があります。
・整備後は川沿い周辺の利便性が向上し、水辺が様々なイベント会場となっています。


夏まつりイベント(交流広場[駐車場])

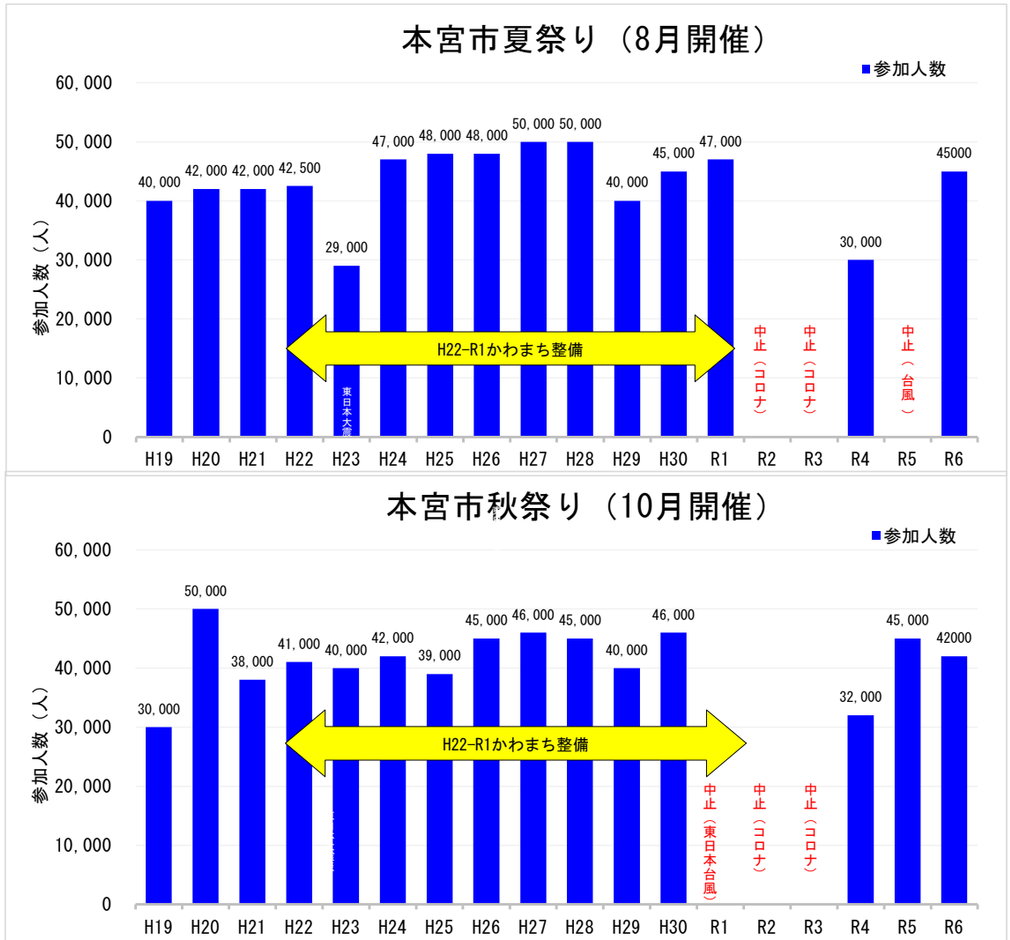

花火大会


舟こぎ競争


(出典：本宮市HP)
放水体験(兼用道路)


もとみやロンドンマーケット
(交流広場[駐車場])


秋祭りイベント（10月開催）



R6入込数は確定値ではありません　出典：福島県観光客入込状況

日々の利用状況

・かわを身近に感じながら、ゆったりできる場所として活用されています。

・堤防道路の拡幅と歩道・車道の色分けにより、安全性が向上し、児童の通学路としても利用が増加しました。


堤防バルコニーの利用


兼用道路の利用

写真出典：特記あるものを除き福島河川国道事務所

整備済（モニタリング中）

【水辺整備】 桑折地区かわまちづくり

【事業の目的・内容】

- 桑折町では、水辺と桃を活かしたまちづくりとして、桃の郷ポケットパーク周辺の改修や農業振興活動拠点施設「Legare Koori（レガーレこおり）」の整備など地域交流の活性化を進めています。
- 「桑折地区かわまちづくり事業」は、桑折町と連携し、まちとかわの回遊・体験空間を形成することで、観光振興及び地域の活性化を進めるために、親水護岸、多目的広場、散策路等の整備を実施しました。

	整備内容	
国土交通省	親水護岸、階段、高水敷整正、管理用通路（散策路）、側帯など	【事業費　377百万円（税込み）】
桑折町	多目的広場、展望スペース・ベンチ、案内看板、トイレ改良など	【事業費　30百万円（税込み）】

桃の郷ポケットパーク周辺



伊達崎（だんざき）排水機場周辺











写真出典：福島河川国道事務所

整備済（モニタリング中） 【水辺整備】 桑折地区かわまちづくり

【事業の効果】

- 阿武隈川の河川空間の利便性が向上することにより、ウォーキング、サイクリング、カヌー等のイベント利用が促進され、観光振興や地域活性化につなげています。
- 「こおり桃源郷」を望む舞台・阿武隈川を軸に、まちとかわを結ぶ多様な交流活動を展開しています。
- 阿武隈川の多様な自然を体験する水辺空間を形成することで、様々なイベントに活用しています。

イベント





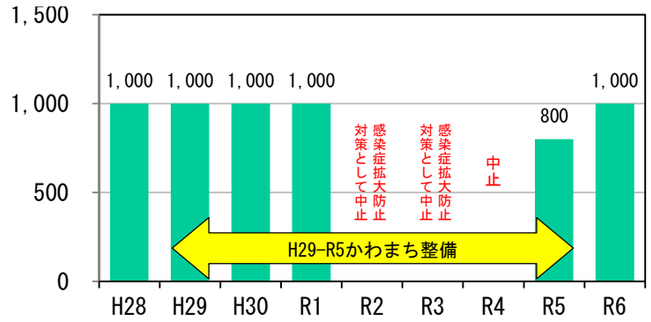




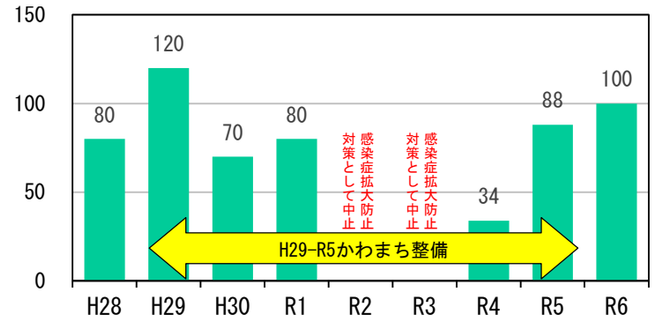


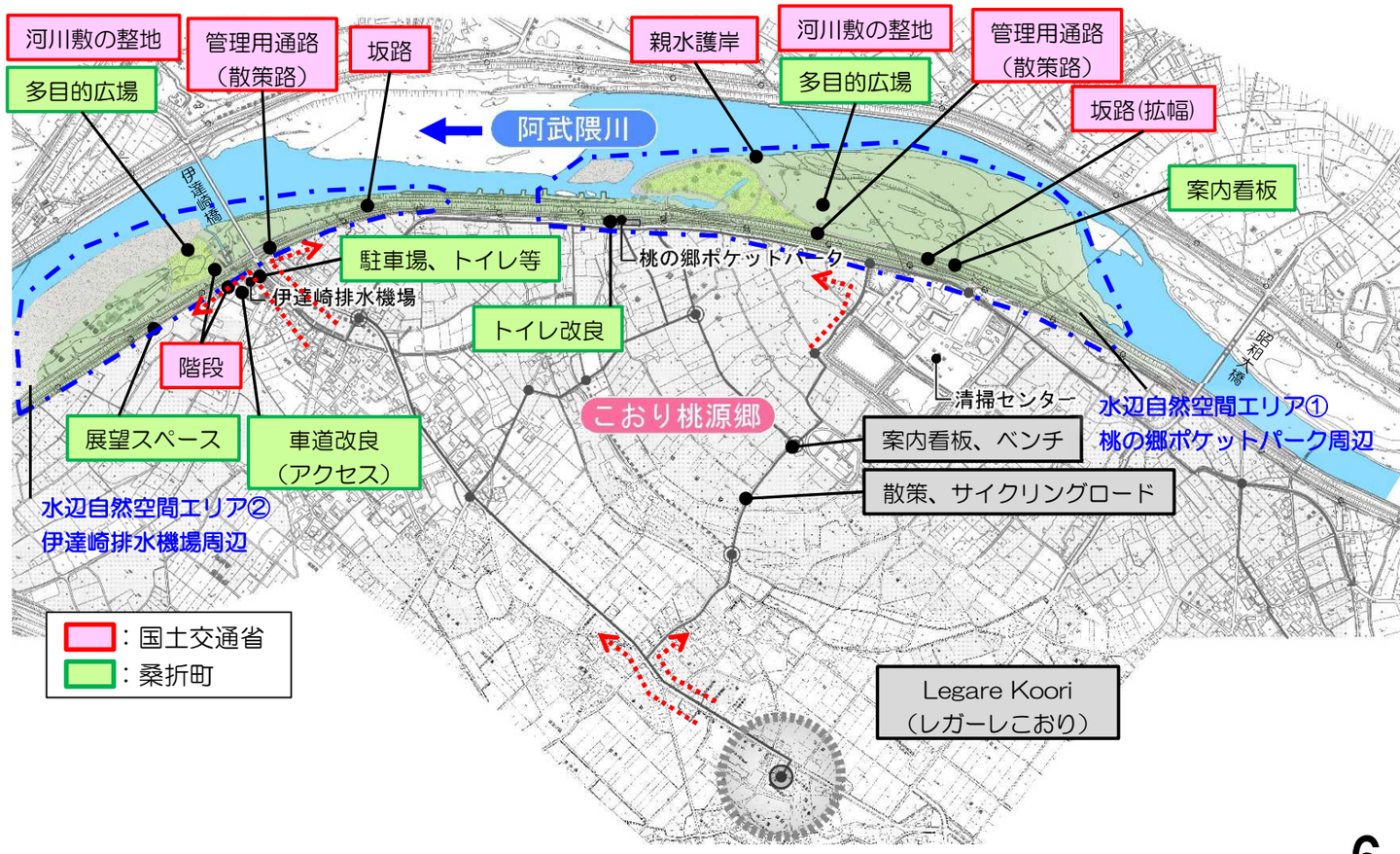
イベント参加者数

【献上桃の郷BBQフェス】



【阿武隈川春のサイクリング】





桑折地区で実施しているかわまちづくりのメニュー

写真出典：福島河川国道事務所

整備中　R3～R7予定　【水辺整備】 玉川村乙字ヶ滝かわまちづくり

【事業の目的・内容】

- 玉川村では、日本の滝100選に選ばれた名滝であり、芭蕉が訪れ句を詠んだことを示す石碑や不動堂、昭和2年に永久橋として落成した乙字橋等の歴史的環境がある乙字ヶ滝と、その周辺の観光拠点との周遊性を主体とした交流人口の拡大を目指し、まちづくりと一体となった水辺利用を推進しています。
- 「玉川村乙字ヶ滝かわまちづくり事業」は、玉川村が進めるまちづくりと連携し、親水護岸、管理用通路、坂路等の整備により親水拠点を形成することで、河川空間を活用した地域の観光振興を目指しています。

	整備内容（予定）
国土交通省	管理用通路（遊歩道、散策路）、坂路、階段護岸など　【事業費　470百万円（税込み）】
玉川村	広場、駐車場・カヌー艇庫、看板など　【事業費　111百万円（税込み）】









写真出典：福島河川国道事務所

整備中　R3～R7予定

【水辺整備】 玉川村乙字ヶ滝かわまちづくり

【事業の効果】

- 「乙字ヶ滝」地区周辺の交流拠点（乙な駅たまかわ）を村内外の各観光拠点と結び、周遊性を高めています。
- イベント等の開催により、公園の利用者への便益を図り、利用者同士の交流を促進する空間として活用しています。

イベント









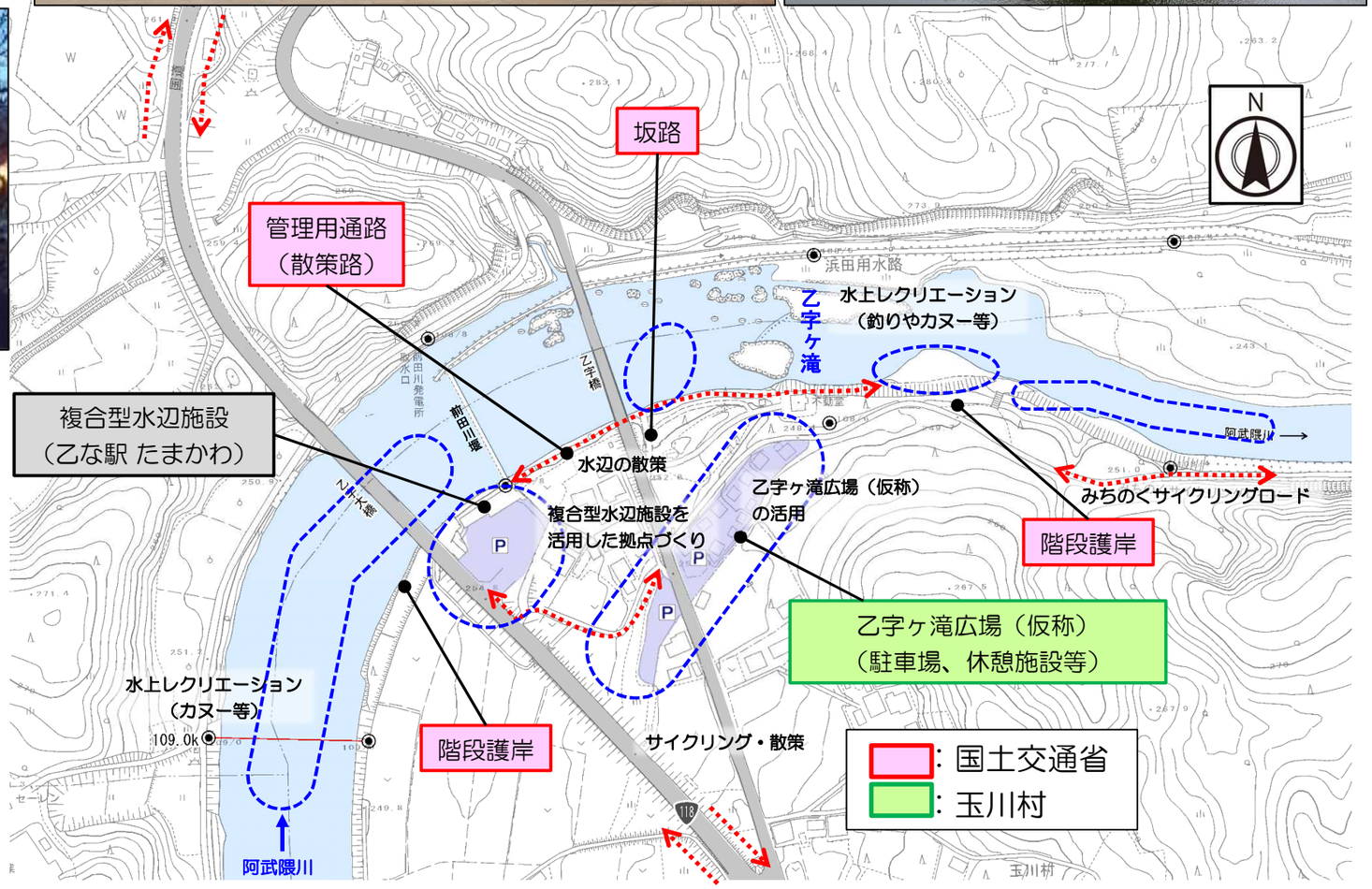


・地域のにぎわい創出とたくさんの人が繋がるイベントが多数開催されています。

乙な駅 たまかわ がオープン（令和6年9月28日）







玉川村乙字ヶ滝地区で実施するかわまちづくりのメニュー

写真出典：福島河川国道事務所

整備予定（R7～R10）【水辺整備】 阿武隈川丸森地区かわまちづくり

【事業の目的】

- 丸森地区には、四季を通じて阿武隈川の自然を楽しめる阿武隈ライン舟下りや、江戸時代後期～昭和初期にかけて栄えた豪商；齋藤理助氏の屋敷「蔵の郷土館齋理（さいり）屋敷」等があり、丸森町の自然や文化を体験できます。
- 現在、令和元年度の東日本台風による浸水被害を受けて「MIZBEステーション」の整備を進めており、この整備と連携して「阿武隈川丸森地区かわまちづくり」を実施することで、阿武隈川沿いの魅力を生かした地域全体の活性化を目指しています。
- また、丸森町で令和5年度に策定した丸森町観光振興計画の重点プロジェクトとして、健康＆アウトドアをキーワードに「水辺の交流拠点整備プロジェクト」に取り組んでおり、併せてかわまちづくりを行うことで、阿武隈川を軸としたエリアの一体感の創出および回遊性の向上を図ります。



蔵の郷土館 齋理屋敷



丸森橋と
選奨土木遺産認定の記念碑



桜づつみ



丸森地区の状況



阿武隈ライン舟下り



八雄館感謝祭



サイクルフェスタ丸森

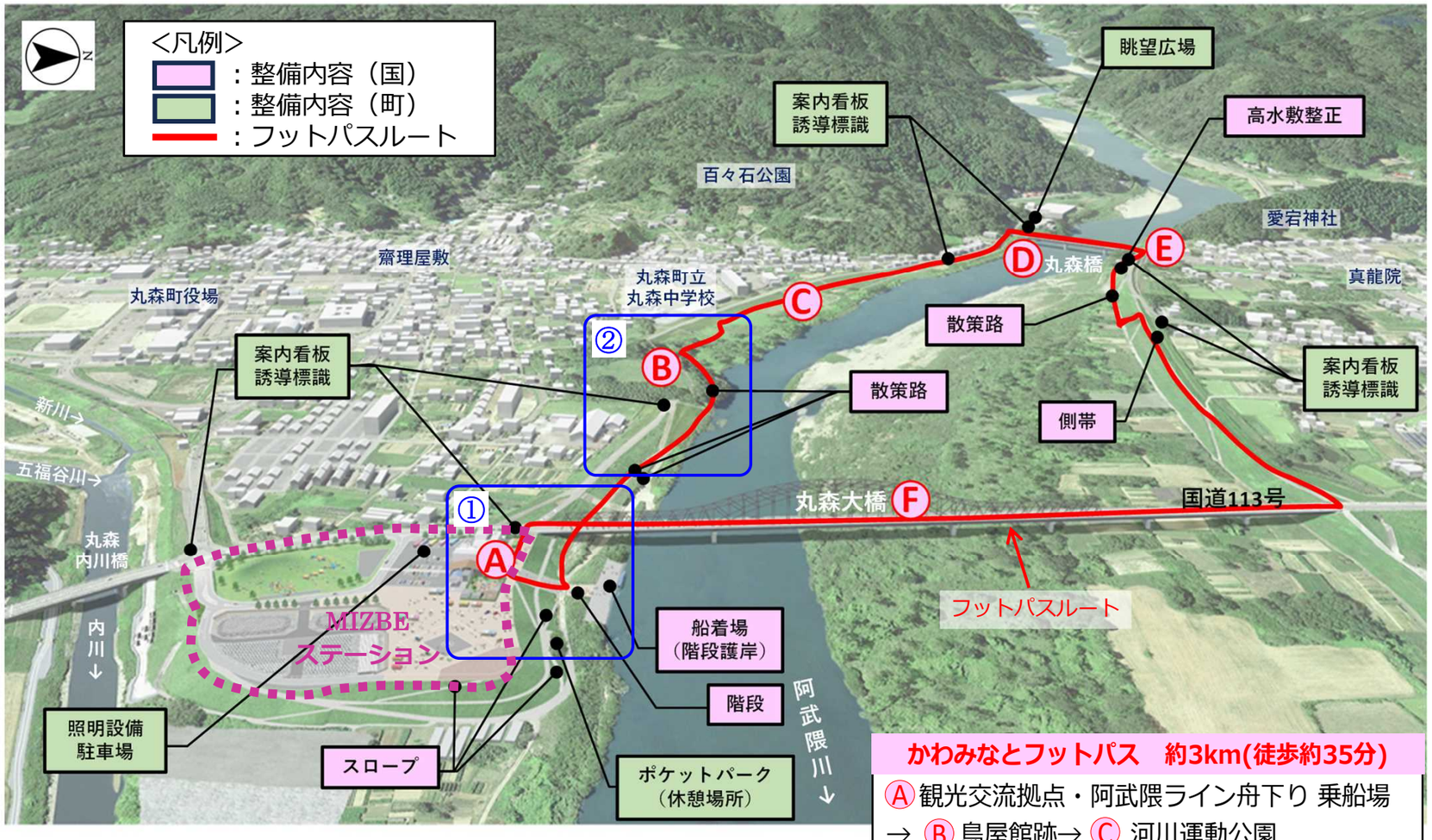
写真出典：特記あるものを除き仙台河川国道事務所、丸森町

整備予定（R7～R10）【水辺整備】 阿武隈川丸森地区かわまちづくり

【事業の内容】

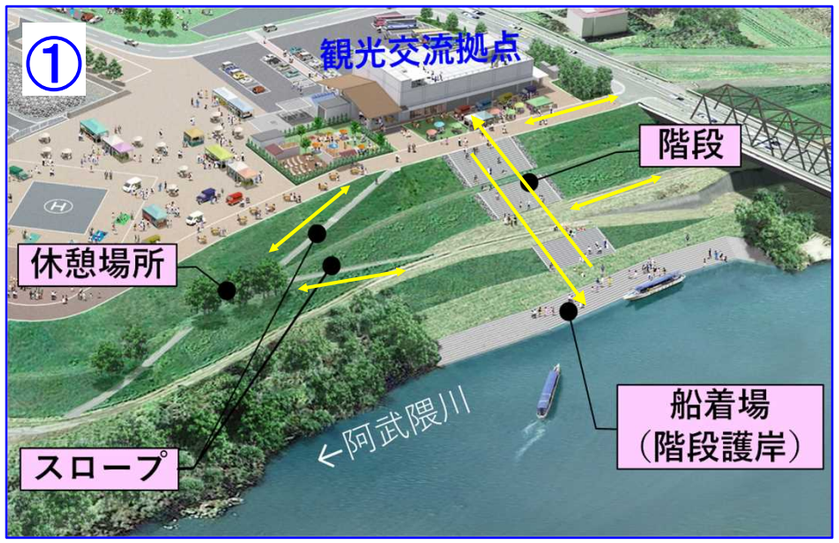
- MIZBEステーション周辺は、観光交流拠点の整備と連携して、日常に加えイベント時のにぎわいを創出する「水辺に親しむ観光拠点」として、船着場や階段等を整備します。
- 丸森橋から丸森大橋の阿武隈川沿いは、日常の散歩や、町内観光施設への観光客の周遊を促進する「かわみなとフットパス」として、散策路等を整備します。

	整備内容（予定）
国土交通省	船着場（階段護岸）、階段、管理用通路（散策路）、坂路（スロープ）、側帯、高水敷整正など 【事業費　904百万円（税込み）】
丸森町	照明設備、駐車場、サインシステム（案内看板、誘導標識）、眺望広場、 ポケットパーク（休憩場所）　【事業費　33百万円（税込み）】

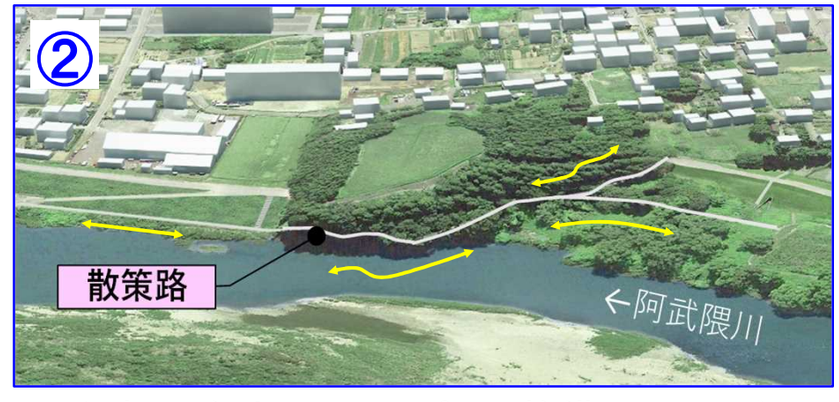


かわみなとフットパス　約3km(徒歩約35分)

Ⓐ観光交流拠点・阿武隈ライン舟下り 乗船場
→ Ⓑ鳥屋館跡→ Ⓒ 河川運動公園
→ Ⓓ丸森橋→ Ⓔ姥石→ Ⓕ 丸森大橋 → Ⓐ



水辺に親しむ観光拠点　整備イメージ
（MIZBEステーション周辺）

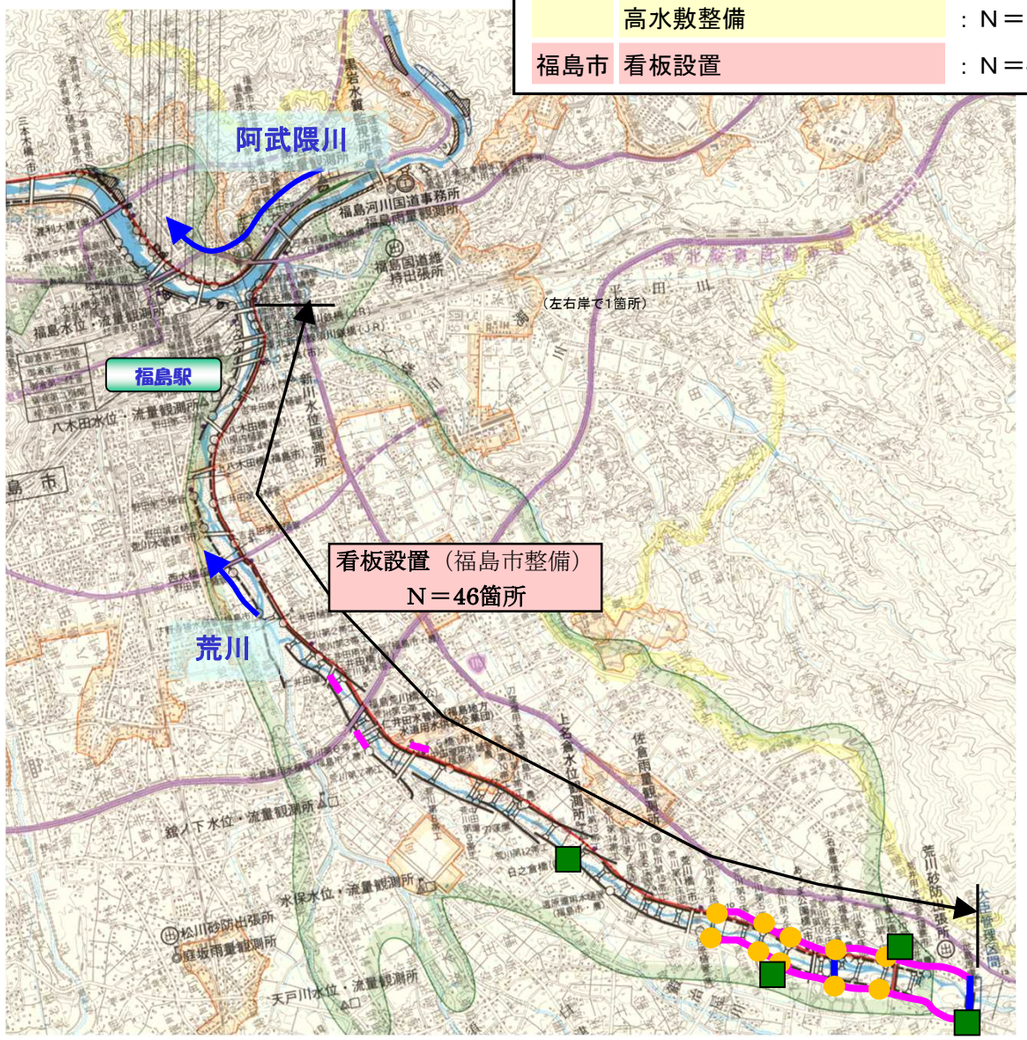


かわみなとフットパス　整備イメージ
（丸森橋から丸森大橋の阿武隈川沿い）

（参考：完了箇所評価済み）　【水辺整備】ふくしま荒川地区かわまちづくり

【事業の目的・内容・効果】

- 福島市の都市マスタープラン等に基づき、周辺自治体と連携した「観光圏整備計画」を策定し、阿武隈川・荒川において、水や緑のネットワーク化など親水空間の整備を行い、荒川の自然や文化を守る活動と観光圏事業を有機的に結び付け、地域が活性化しました。
- 「ふくしま荒川地区かわまちづくり事業」により、福島市の取り組みと連携を図り、市街地と既存の交流拠点や歴史的な土木構造物等をつなぐ堤防上の通路や散策路等を整備したことで、川とまちのネットワークを形成し、回遊性が向上したことにより、観光振興を推進しました。



	整備内容
国土交通省	管理用通路、看板設置、側帯など　【事業費　293百万円（税込み）】
福島市	案内看板　【事業費　2百万円（税込み）】


地蔵原堰堤右岸の管理用通路（階段）


管理用通路（散策路）を
ウォーキングする状況


利用状況（地蔵原堰堤）



展望エリア（看板・散策路含む）

写真出典：福島河川国道事務所

事業の進捗状況と今後の見通し

【事業の進捗状況】

【事業実施状況（令和6年度末時点）】

※国土交通省の事業費のみ記載

（1）全体事業費：約19．2億円（税込）
（2）整備済み事業費：約8．6億円（税込）
（3）進捗率：全体の約44．7%（税込）
（4）残事業費： 約10．6億円（税込）

【今後の事業の見通し】

●「本宮地区かわまちづくり」は、令和元年度に整備が完了し、整備完了後もモニタリング・分析評価等を実施し、令和5年度に完了しました。阿武隈川の河川空間の利便性が向上し、河川利用が活性化され、整備による効果が確認されました。

●「桑折地区かわまちづくり」は、令和5年度に整備が完了し、整備完了後もモニタリング・分析評価等を実施し、令和10年度に完了する予定です。

●「玉川村乙字ヶ滝かわまちづくり」は、地元関係者、玉川村と連携しながら、令和3年度に事業着手し、令和7年度の整備完了を目指しています。整備完了後もモニタリング・分析評価等を実施し、令和12年度に完了する予定です。

● 「阿武隈川丸森地区かわまちづくり」は、地元関係者や丸森町と連携しながら、「丸森地区河川防災ステーション利活用検討委員会」により検討等を行っており 、令和7年度に事業着手し、令和10年度の整備完了を目指しています。整備完了後もモニタリング・分析評価等を実施し、令和15年度に完了を目指しています。

費用便益算定

【前回からの主な変更点】

■費用算定方法の相違

	今回の検討(R6)	前回の検討(R2)
事業箇所	水辺整備：4地区 ・本宮地区かわまちづくり ・桑折地区かわまちづくり ・玉川村乙字ヶ滝かわまちづくり ・阿武隈川丸森地区かわまちづくり（新規）	水辺整備：4地区 ・ふくしま荒川地区かわまちづくり ・本宮地区かわまちづくり ・桑折地区かわまちづくり ・玉川村乙字ヶ滝かわまちづくり
事業期間	H22～R15（2010～2033）	H19～R12（2007～2030）
全体事業費	約２１．０億円　（税込み、現在価値化前） （以下の事業の事業内容変更による事業費の見直し） ■阿武隈川丸森地区かわまちづくり：約９３７百万円増(地区の追加) ■ふくしま荒川地区かわまちづくり：約２９５百万円減(完了箇所評価済みのため除外)	約１４．６億円　（税込み、現在価値化前）
維持管理費	約２６６百万円（税込み、現在価値化前） ■阿武隈川丸森地区かわまちづくりの追加による維持管理費の増加	約１０６百万円（税込み、現在価値化前）

費用便益算定

【整備済(完了箇所評価)】

■便益算定方法の相違(本宮地区 かわまちづくり:CVM)

	今回の検討 (R6)	前回の検討 (R2)
集計範囲	事業箇所から12km圏内 (R5事前調査結果より設定)	事業箇所から6km圏内 (H29事前調査結果より設定)
対象世帯数	92,343[世帯] (R2国勢調査) 事業箇所から12km圏内に含まれる地区の世帯数	14,704[世帯] (R2.4福島県統計) 事業箇所から6km圏内に含まれる地区の世帯数
アンケート調査	有効回答300票以上を目標にして、 回答数が1,124票、うち有効回答数が453票	有効回答300票以上を目標にして、 回答数が794票、うち有効回答数が362票
支払意思額	616[円/月/世帯] 回答アンケートから抵抗回答等を排除した、有効回答453票からの平均支払意思額	406[円/月/世帯] 回答アンケートから抵抗回答等を排除した、有効回答362票からの平均支払意思額

【整備済(モニタリング中)】

■便益算定方法の相違(桑折地区 かわまちづくり:CVM)

	今回の検討 (R6)	前回の検討 (R2)
集計範囲	事業箇所から11km圏内 (R5事前調査結果より設定)	事業箇所から11km圏内 (H29事前調査結果より設定)
対象世帯数	65,680[世帯] (R2国勢調査) 事業箇所から11km圏内に含まれる地区の世帯数	67,049[世帯] (R2.4福島県統計) 事業箇所から11km圏内に含まれる地区の世帯数
アンケート調査	有効回答300票以上を目標にして、 回答数が971票、うち有効回答数が369票	有効回答300票以上を目標にして、 回答数が700票、うち有効回答数が305票
支払意思額	425[円/月/世帯] 回答アンケートから抵抗回答等を排除した、有効回答369票からの平均支払意思額	293[円/月/世帯] 回答アンケートから抵抗回答等を排除した、有効回答305票からの平均支払意思額

費用便益算定

【整備中】

■便益算定方法の相違（玉川村乙字ヶ滝 かわまちづくり：CVM）

	今回の検討（R6）	前回の検討（R2）
集計範囲	事業箇所から14km圏内（R5事前調査結果より設定）	事業箇所から14km圏内（R1事前調査結果より設定）
対象世帯数	67,962[世帯]（R2国勢調査） 事業箇所から14km圏内に含まれる地区の世帯数	68,831[世帯]（R2.4福島県統計） 事業箇所から14km圏内に含まれる地区の世帯数
アンケート調査	有効回答300票以上を目標にして、 回答数が934票、うち有効回答数が372票	有効回答300票以上を目標にして、 回答数が1,083票、うち有効回答数が435票
支払意思額	363[円/月/世帯] 回答アンケートから抵抗回答等を排除した、有効回答372票からの平均支払意思額	356[円/月/世帯] 回答アンケートから抵抗回答等を排除した、有効回答435票からの平均支払意思額

【整備予定】

■便益算定方法の相違（阿武隈川丸森地区 かわまちづくり：CVM）

	今回の検討（R6）	前回の検討（R2）
集計範囲	事業箇所から12km圏内（R5事前調査結果より設定）	－
対象世帯数	18,606[世帯]（R2国勢調査） 事業箇所から12km圏内に含まれる地区の世帯数	－
アンケート調査	有効回答300票以上を目標にして、 回答数が661票、うち有効回答数が338票	－
支払意思額	351[円/月/世帯] 回答アンケートから抵抗回答等を排除した、有効回答338票からの平均支払意思額	－

事業の投資効果

【費用対効果分析】

●全体事業の費用便益比（B／C）は12．9、残事業は2．9と算定しました。いずれも1.0を上回っていることから投資効率性が良い結果となっています。
●投資効率の感度分析では、残事業費、残工期、便益が±10%変動した場合のB/Cを算定した結果、全体事業及び残事業ともに1．0を上回っていました。　【全体事業：B／C＝11．6 ～14．2 、 残事業：B／C＝2．6 ～3．2】

■費用対効果分析（費用便益比）

項目			今回の評価（R6年度）			前回の評価（R2年度）		
			全体事業（H22～R15）	残事業（R7～R15）	完了地区（H22～R5）	全体事業（H19～R12）	残事業（R3～R12）	完了地区（H19～H24）
			現在価値化			現在価値化		
費用	事業費	①	**20.6億円**	**9.4億円**	**3.1億円**	15.3億円	10.5億円	4.9億円
	維持管理費	②	**0.8億円**	**0.6億円**	**0.1億円**	0.5億円	0.2億円	0.4億円
	総費用C	③＝①＋②	**21.4億円**	**10.1億円**	**3.1億円**	15.9億円	10.6億円	5.2億円
効果	便益	④	**275.8億円**	**29.1億円**	**152.5億円**	176.9億円	113.0億円	63.9億円
	残存価値	⑤	**0.1億円**	**0.1億円**	**0.0億円**	0.1億円	0.1億円	0.0億円
	総便益B	⑥＝④＋⑤	**275.9億円**	**29.2億円**	**152.5億円**	177.0億円	113.1億円	63.9億円
費用対便益比(CBR) B／C			**12.9**	**2.9**	**48.7**	11.1	10.6	12.2
純現在価値化(NPV) B－C			**254.5億円**	**19.2億円**	**149.4億円**	161.1億円	102.5億円	58.6億円
経済的内部収益率(EIRR)			**25.4%**	**10.5 %**	**41.2 %**	29.1%	22.9%	31.2%

■費用対効果分析（感度分析）

項目		基本ケース	感度分析					
			残事業費変動		残工期変動		便益変動	
			+10%	−10%	+10%	−10%	+10%	−10%
全体事業（H22～R65）	総費用C(現在価値)	21.4億円	22.3億円	20.4億円	21.3億円	21.3億円	21.4億円	21.4億円
	総便益B(現在価値)	275.9億円	275.9億円	275.9億円	271.1億円	280.8億円	303.5億円	248.3億円
	費用便益比B／C	12.9	12.4	13.5	12.8	13.2	**14.2**	**11.6**
残事業（R7～R65）	総費用C(現在価値)	10.1億円	11.0億円	9.1億円	9.9億円	10.1億円	10.1億円	10.1億円
	総便益B(現在価値)	29.2億円	29.2億円	29.2億円	28.1億円	30.4億円	32.1億円	26.3億円
	費用便益比B／C	2.9	2.7	**3.2**	2.8	3.0	**3.2**	**2.6**

※表示桁数の関係で計算値が一致しないことがある　※**赤字**：全体事業及び残事業のB/Cの最大値　※**青字**：全体事業及び残事業のB/Cの最小値

〇評価基準年次：R6年度
〇総便益（B）
・便益は、評価基準年次を現在価値化の基準時点とし、事業完了から50年間（評価対象期間）における便益を社会的割引率を用いて現在価値化したものの総和に、社会的割引率を用いて現在価値化した残存価値を足したもの。
・残存価値：将来において施設が有している価値
〇総費用（C）
・評価基準年次を現在価値化の基準時点とし、事業期間と事業完了から50年間（評価対象期間）における事業費と維持管理費を河川のデフレータ及び社会的割引率を用いて現在価値化したものの総和
・事業費：水辺整備に要する費用（残事業は、R7年度以降）
※実施済の事業費は実績費用を計上
・維持管理費：整備箇所の維持管理に要する費用
〇社会的割引率：「社会資本整備に係る費用対効果分析に関する統一的運用指針」により4%とする

（参考）国債の実質利回りを踏まえた社会的割引率を用いた場合

社会的割引率	B/C	
	全体事業	残事業
4%	12.9	2.9
2%※	18.9	4.5
1%※	23.5	5.7

※社会的割引率をR4までを4%、R5以降を2%または1%として分析。

地域の協力体制等

河川愛護活動や河川清掃活動

●整備済・整備中箇所では、日常的な親水活動やイベントの場として利用されているほか、地区町内会等による積極的な維持管理が実施されており、地域との協力体制が構築され、河川利用及び河川愛護の機運が高まっています。

●整備予定箇所においても、地域住民と連携した清掃活動を継続的に実施しています。



もとみやロンドンマーケット
（本宮地区かわまちづくり）



カヌー体験
（玉川村乙字ヶ滝かわまちづくり）



清掃活動
（桑折地区かわまちづくり）



消防団救助訓練
（桑折地区かわまちづくり）



阿武隈川清掃美化運動
（阿武隈川丸森地区かわまちづくり）

写真出典：特記あるものを除き福島河川国道事務所

コスト縮減の取組み

【コスト縮減の取組み】

〇坂路工等の盛土材料を「高水敷整正で発生した土砂（掘削土）」を活用し、購入土の使用量を抑えることでコスト縮減を行いました。

〇坂路工等の盛土材料に発生土砂（掘削土）を活用

高水敷整正で発生した土砂（掘削土）を活用することにより、コスト縮減を行いました。

■ R4～R5年度実施事例

◇堤防の坂路への活用　　計　700 m^3

盛土材料に購入土を使用した場合　　：700m^3 × 購入単価 2,900円/m^3 = 2.0百万円（直工）

発生した土砂（掘削土）を運搬して使用した場合：700m^3 × 運搬単価　500円/m^3 = 0.4百万円（直工）

⇒コスト縮減額　1.6百万円（直工）

3.2百万円（経費込）



高水敷整正（掘削）

コスト縮減



坂路整備（発生土活用）

写真出典：福島河川国道事務所

県からの意見

【県からの意見】

●宮城県知事、福島県知事からは事業継続に対して異議はない旨の回答をいただいています。

● 宮城県知事からの回答

土 総 第 １ １ ８ 号
令和６年１２月４日

国土交通省東北地方整備局長　殿

宮城県知事　村　井　嘉　浩

東北地方整備局所管の再評価対象事業の対応方針（原案）の作成に係る意見照会について（回答）

令和６年１０月３０日付け国東整企画第８７号で依頼のありましたこのことについては、下記のとおりです。

記

１　対象事業
　阿武隈川総合水系環境整備事業

２　意　　見
　「対応方針（原案）」のとおり「継続」で異議ありません。
　なお、事業の実施に当たっては、一層のコスト縮減など効率的な事業の推進に努められますようお願いします。

● 福島県知事からの回答

６企技第９１３号
令和６年１１月２９日

国土交通省
東北地方整備局長　様

福 島 県 知 事

東北地方整備局所管の再評価対象事業の対応方針（原案）作成に係る意見照会について（回答）

令和６年１０月３０日付け国東整企画第８７号により依頼ありましたこのことについては、下記のとおりです。

記

１　事業に対する意見

（１）　阿武隈川総合水系環境整備事業
　国の対応方針（原案）については、異議ありません。
　引き続き、多くの人々が利活用できる良好な水辺の整備に努めてください。

対応方針（原案）

①事業の必要性に関する視点

●整備済の本宮地区かわまちづくりでは、管理用通路や階段等の整備により、阿武隈川の河川空間の利便性が向上したため、日々の利用が促進されるとともに、本宮市の取り組みと連携し、まちの魅力向上や、まちの活性化、観光振興を図るために各種イベントが開催され、川とまちの交流の場として活用されている。

●整備済（モニタリング中）の桑折地区かわまちづくりでは、こおり桃源郷を望む阿武隈川を軸に、まちとかわの回遊・体験空間形成の整備が行われ、まちとかわを結ぶ多様な交流活動の展開、近隣市町からのアクセス・連携が強化されている。

●整備中の玉川村乙字ヶ滝かわまちづくりでは、乙字ヶ滝地区を核とする交流拠点の形成、村内外の各観光拠点とを結ぶネットワークを形成するため、「まち」と「かわ」が融合した良好な空間形成の整備が行われている。

●整備予定の阿武隈川丸森地区かわまちづくりについては、日常及びイベント時の賑わい拠点を創出、町内観光施設への観光客の周遊を促進するため、阿武隈川を軸としたエリア一体感の創出及び回遊性の向上を図った整備が求められている。

●事業の投資効果を評価した結果、費用便益比が全体事業では12.9、残事業では2.9となっており、今後も投資効果が期待できる。

②事業の進捗の見込みの視点

●現在の事業の進捗状況は全体の約44.7%（事業費率）である。

●「本宮地区かわまちづくり」は、令和元年度に整備が完了し、整備完了後もモニタリング・分析評価等を実施し、令和5年度に完了。

●「桑折地区かわまちづくり」は、令和5年度に整備が完了し、整備完了後もモニタリング・分析評価等を実施し、令和10年度に完了する予定。

●「玉川村乙字ヶ滝かわまちづくり」は、令和3年度に事業着手し、令和7年度の整備完了を目指している。整備完了後もモニタリング・分析評価等を実施し、令和12年度に完了する予定。

● 「阿武隈川丸森地区かわまちづくり」は、令和7年度に事業着手し、令和10年度の整備完了を目指している。整備完了後もモニタリング・分析評価等を実施し、令和15年度に完了を目指している。

③コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

●坂路工等の盛土材料を「高水敷整正で発生した土砂（掘削土）」を活用し、購入土の使用量を抑えることでコスト縮減を図った。

④地方公共団体等の意見

●宮城県知事、福島県知事の意見として、事業の継続に異議はない旨の回答をいただいている。

以上より、今後の事業の必要性、重要性に変更はなく、費用対効果等の投資効果も確認できることから、阿武隈川総合水系環境整備事業については『事業継続』が妥当である。

【参考】総合水系環境整備事業について

【事業内容】

■水辺整備
（水辺の整備に関する事業）

賑わいのある水辺の創出、環境学習の場となる水辺の整備、まちと水辺が融合した良好な空間形成等

- ➢水辺プラザ
- ➢水辺の楽校
- ➢かわまちづくり

ふくしま荒川地区・管理用通路（散策路）



渡利水辺の楽校



■自然再生
（自然の再生に関する事業）

自然環境の保全・復元のための河道整備、魚類の遡上困難な施設の魚道整備等

- ➢レキ河原再生
- ➢魚の上りやすい川づくり

和賀川



鴇波洗堰新設魚道



■水環境
（水質や水量に関する事業）

河川の水質・水量改善に関する対策等

- ➢導水施設（取水ポンプ場）
- ➢環境用水の導水

広瀬川地区・水環境整備





導水による流況改善
（上：整備前、下：整備後）

写真出典：仙台河川国道事務所、福島河川国道事務所

【参考】費用便益分析

【費用対効果分析】

「**費用便益分析**」：投資する費用に対する、整備による効果・メリットについて、
お金に換算して、事業の効率性について評価するもの

【便益】	◆**評価手法**	便益の評価手法は、「河川に係る環境整備の経済評価の手引き」等に基づき、事業の特性等を踏まえて選定。 〇水辺整備事業 ：利用価値と非利用価値が混在しているため「CVM法」を適用。
	◆**残存価値**	評価期間終了後における残存価値は、「治水経済調査マニュアル(案)」の護岸等の構造物に準じて、総費用の10%を計上。
【費用】	◆**事業費**	「整備済み箇所（モニタリング中）」については事業に要した実績額を計上。 「整備中の箇所」について、過年度は事業に要した実績額、将来は計画額を計上。 「整備予定箇所」については計画額を計上。
	◆**維持管理費**	「整備済み箇所」、「整備済み箇所（モニタリング中）」、「整備中の箇所」については実績の維持管理費に基づき設定。 「整備予定箇所」については事業費の0.5%に設定。

【参考】費用便益分析

【CVM法（仮想市場法）】

- ●本宮地区、桑折地区、玉川村乙字ヶ滝及び、阿武隈川丸森地区かわまちづくりの費用便益分析の手法として、CVM法を用いています。
- ●評価対象の内容を説明した上で、整備にかかる費用を支払う意思を確認し、支払っても良いと考える金額（支払意思額）を直接的に質問し、評価する手法です。
- ●アンケート回答者に事業内容が伝わるよう、説明資料がわかりやすくなるよう工夫しました。

手　順

① 対象範囲の設定

↓

② アンケート調査

↓

③ 賛成率曲線の作成

↓

④ 支払意思額の算定

↓

⑤ 便益の算定

■阿武隈川下流

・対象範囲は事前調査の結果から、現地利用者の多くが居住する事業箇所から12km圏と設定。

●阿武隈川丸森地区かわまちづくり
支払意思額（WTP） 351[円/月/世帯]
対象世帯数　18,606世帯
年便益　351円×12ヶ月×18,606世帯
＝78.4百万円/年



■阿武隈川上流

・対象範囲は事前調査の結果から、現地利用者の多くが居住する事業箇所から12km圏（本宮地区）、11km圏（桑折地区）、14km圏（玉川村乙字ヶ滝）と設定。

●桑折地区かわまちづくり
支払意思額（WTP） 425[円/月/世帯]
対象世帯数　65,680世帯
年便益 425円×12ヶ月×65,680世帯
＝335.0百万円/年



●本宮地区かわまちづくり
支払意思額（WTP） 616[円/月/世帯]
対象世帯数　92,343世帯
年便益 616円×12ヶ月×92,343世帯
＝683.0百万円/年

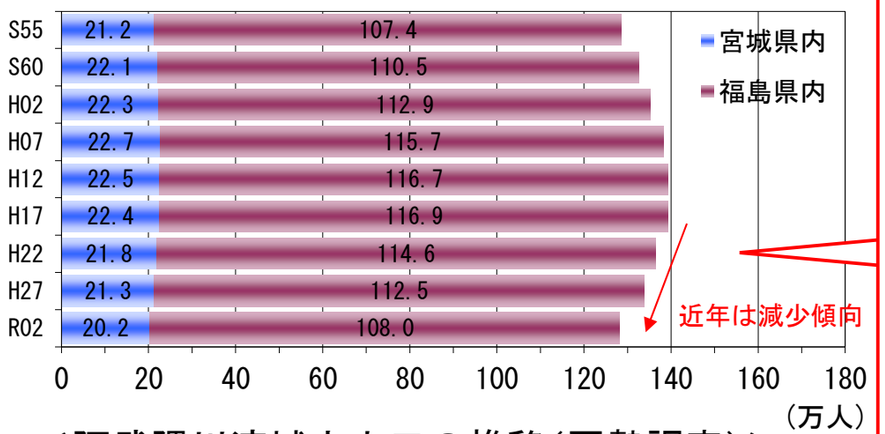


●玉川村乙字ヶ滝かわまちづくり
支払意思額（WTP） 363[円/月/世帯]
対象世帯数　67,962世帯
年便益 363円×12ヶ月×67,962世帯
＝296.0百万円/年

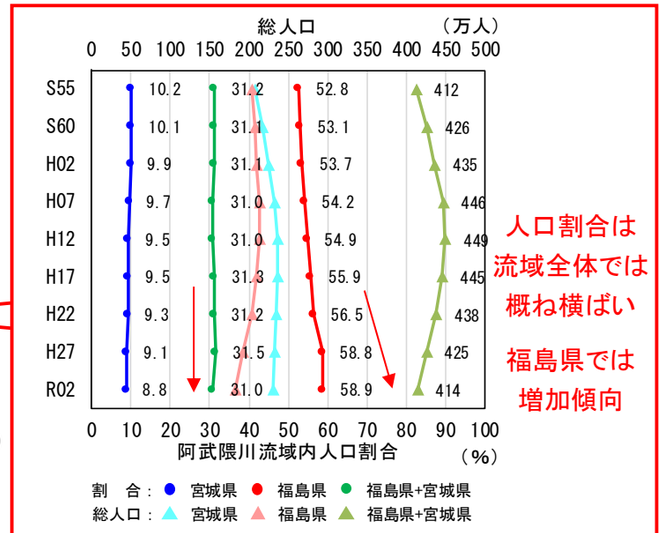


【参考】地域開発の状況

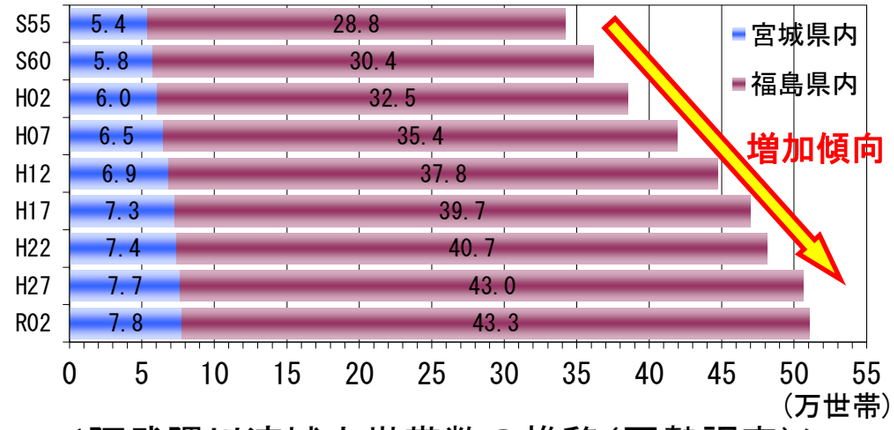
- 阿武隈川流域の人口は、経済成長が著しかった昭和55年から平成17年まで増加を続けていましたが、近年は若干の減少傾向となっています。一方、世帯数は、昭和55年から令和2年にかけて増加傾向となっています。
- 昭和39年に郡山市が常磐・郡山新産業都市に指定され、全国的な経済成長と共に阿武隈川流域の産業は大きく成長しました。
- 製造品出荷額は平成7年から平成12年にかけて増加していましたが、その後減少傾向に転じ、近年では概ね横ばいとなっています。
- 産業別就業者数の構成は、第3次産業の割合が年々増加しています。第2次産業も平成2年まで増加傾向でしたが、平成17年以降は横ばい傾向であり、第1次産業は顕著な減少傾向となっています。



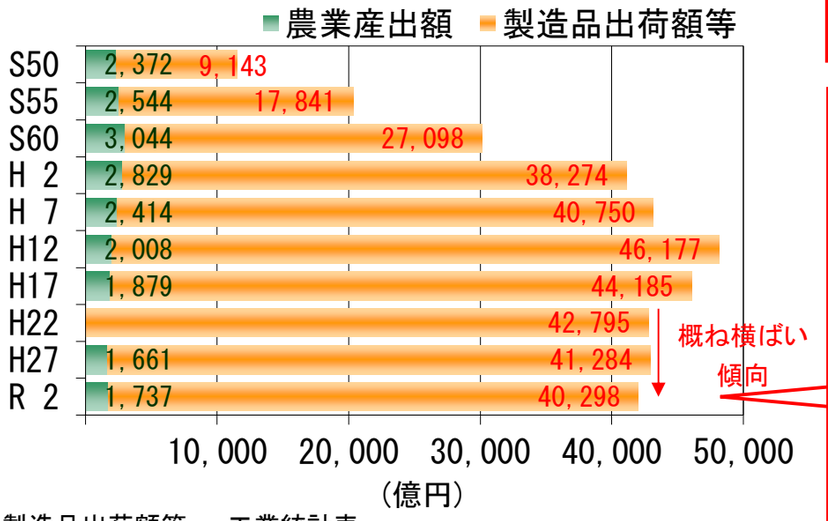
＜阿武隈川流域内人口の推移(国勢調査)＞



＜阿武隈川流域内人口の県内に占める割合の推移＞



＜阿武隈川流域内世帯数の推移(国勢調査)＞



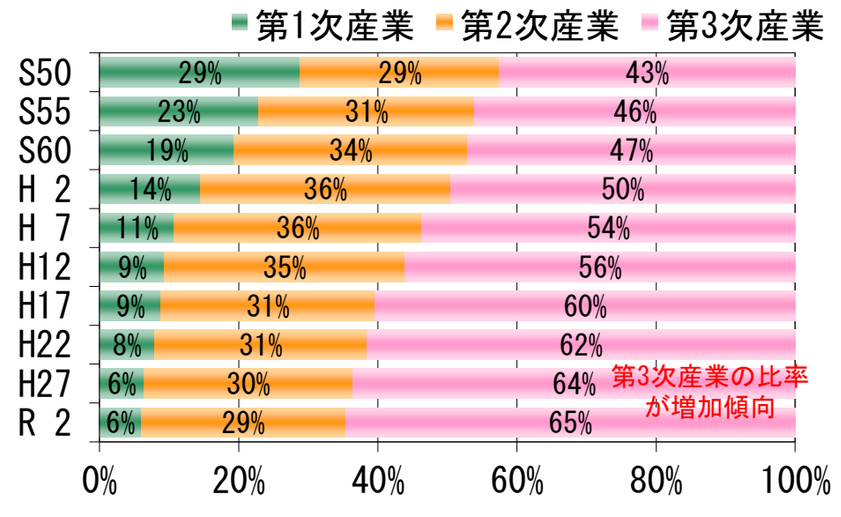
＜製造品出荷額・農業産出額の県内に占める割合(R02)＞

農業産出額	福島県	宮城県	合計
流域内 (億円)	1,352	385	1,737
県内 (億円)	2,116	1,902	4,018
流域内／県内	64%	20%	43%

製造品出荷額	福島県	宮城県	合計
流域内 (億円)	30,712	9,586	40,298
県内 (億円)	47,670	43,580	91,250
流域内／県内	64%	22%	44%

出典：製造品出荷額等・・・工業統計表
農業産出額・・・・・生産農業所得統計、各県統計年鑑(～H17)
市町村別農業産出額(推計)(H27～)
※H18～H25は市町村別データが未公表

＜阿武隈川流域の製造品出荷額・農業産出額＞



出典：産業別就業者数・・・国勢調査

＜阿武隈川流域の産業別就業者数の割合＞

【参考】関連事業との整合等

阿武隈川水系流域治水プロジェクト【流域治水の具体的な取組】

～本川・支川の抜本的な治水対策と流域対策が一体となった総合的な防災・減災対策～

戦後最大洪水等に対応した河川の整備（見込）

整備率：９９％

（概ね５か年後）

農地・農業用施設の活用

２２市町村

（令和５年度末時点）

流出抑制対策の実施

７施設

（令和４年度実施分）

山地の保水機能向上および土砂・流木災害対策

治山対策等の実施箇所　２５箇所

（令和５年度実施分）

砂防関係施設の整備数　４施設

（令和５年度完成分）

※施工中　２９施設

立地適正化計画における防災指針の作成

６市町村

（令和５年７月末時点）

避難のためのハザード情報の整備

洪水浸水想定区域　７１河川

（令和５年９月末時点）

内水浸水想定区域　２団体

（令和５年９月末時点）

高齢者等避難の実効性の確保

避難確保計画　洪水８４０施設　土砂９１施設

（令和５年９月末時点）

個別避難計画　２１市町村

（令和５年1月1日時点）

氾濫をできるだけ防ぐ･減らすための対策



【宮城県　角田市】

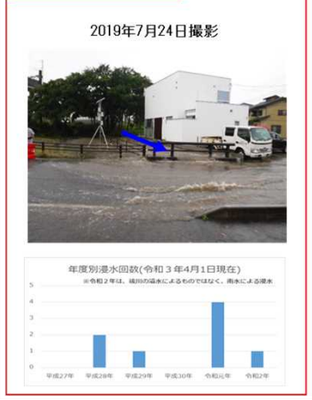
○市道 駅前花島線に越水対策工事（止水壁）を設置し、尾袋川からの越水対策を実施することで左関地区への越水流入を防ぎ、避難経路を確保する対策を実施しています。



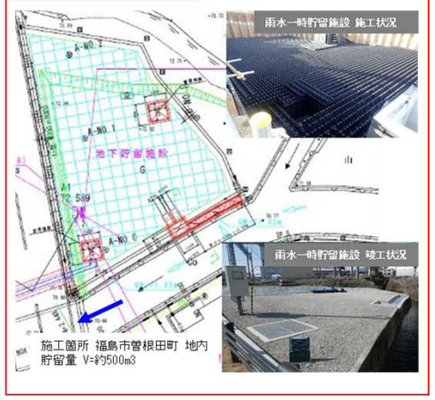
【福島県　福島市】

○市内を流れる普通河川祓川において、上流部の土地利用変化や、流末にあたる雨水渠が未整備区間のため、大雨による浸水被害が発生していたため、浸水多発地区に雨水一時貯留施設（貯留量V=約500m3）を設置し、浸水対策を実施しています。

祓川　溢水状況



雨水一時貯留施設の概要



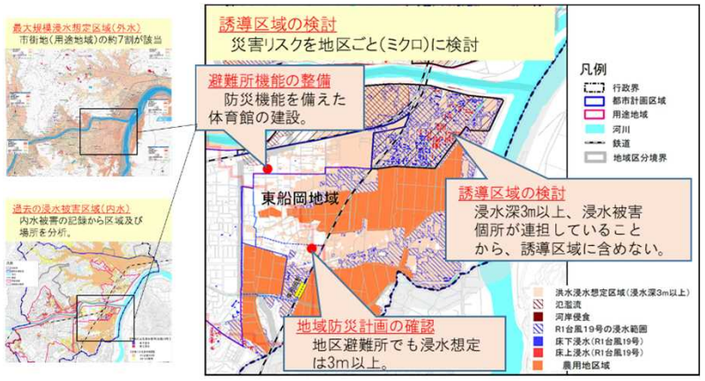
被害対象を減少させるための対策

【宮城県　柴田町】

○令和4年5月に立地適正化計画を策定･公表

○防災に対する方針等をまとめた防災指針を策定し、災害リスクを踏まえた誘導区域を検討

最大規模での浸水被害と過去の浸水（内水）被害の両面で災害リスクを詳細に分析し、地域防災計画の検証を行いながら、誘導区域を設定し安全･安心で快適なコンパクトな市街地の誘導･形成を目指す。



【民間企業の取組】

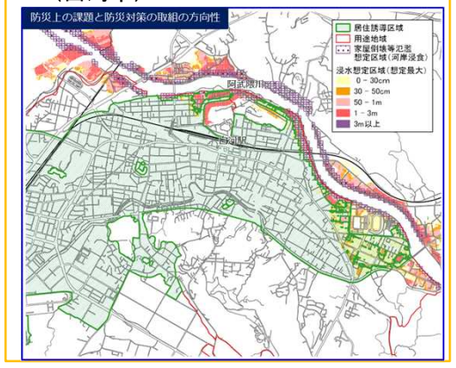
○工場への浸水被害を防ぐために、出入口に止水壁を設置

（郡山市）



○立地適正化計画における居住誘導区域内での防災指針の策定

（白河市）



被害の軽減、早期の復旧･復興のための対策

【宮城県　角田市】

○地域における講習会等によりマイ･タイムラインや避難確保計画作成の普及、防災リーダーの育成等を通じて、地域防災力の向上を図る





気象予報士から学ぶ
マイ･タイムライン講習会
（角田市 北角田中学校）

○災害時の一人ひとりの適切な避難行動を普段から考えてもらう取組み

（マイ避難ノートの配布）



○平常時・洪水時の河川状況や河川水位の上昇等を把握できるよう、YouTubeライブ配信を開始



「阿武隈川緊急治水対策プロジェクト」

～本川・支川の抜本的な治水対策と流域対策が一体となった総合的な防災・減災対策～

○令和元年台風第19号に伴う洪水により、阿武隈川では越水・溢水が発生し、本川上流部や支川では堤防決壊等が多数発生するとともに、本川下流部では大規模な内水被害が発生するなど、**流域全体で甚大な浸水被害**となった。

○今後、**関係機関が連携**し、**ハード整備・ソフト対策が一体となった流域全体における総合的な防災・減災対策**を行うことにより、**浸水被害の軽減、逃げ遅れゼロ、社会経済被害の最小化**を目指す。

①河川における治水対策の推進

【ハード整備】**約１，８６６億円**

■ 観測史上最高水位を更新するほどの大規模な洪水により、本川・支川で越水・溢水、堤防決壊、内水氾濫等が多数発生

→ 本川の水位を低下させる対策、支川における堤防強化等の治水対策を推進

＜主なメニュー案＞

- **国・県管理河川の堤防決壊**箇所等、被災した河川管理施設の**「災害復旧」の推進**
- 現在　実施中の「堤防整備」等の早期完成
- 「河道掘削、樹木伐採」等の推進、「河川整備計画」に位置づけられている**「河川の水位を低下させる対策」**等の順次検討・着手
- **本川の背水影響が及ぶ支川等の「堤防強化」**、「準用河川」の整備促進
- 内水が顕著な河川等における「排水機能の強化及び耐水化」
- [illegible]



98.6k 左岸堤防決壊箇所(須賀川市)

相互に連携

土地利用や避難体制を意識した事業推進

施設整備計画を踏まえた避難計画　等

【ソフト対策】

②減災型都市計画の展開

■ 沿川都市の都市化の進展により低平地の新興住宅地等での浸水リスクが顕在化

→沿川地域における住まい方、まちづくりの工夫の推進

＜主なメニュー案＞

- 浸水リスクを考慮した**「立地適正化計画」**の展開
- 支川や内水を考慮した「複合的なハザードマップ」の作成
- 「特定都市河川」制度に準じた流域対策（例:**雨水貯留施設**等）
- 高頻度で浸水する区域の「災害危険区域」等の指定



下水道事業による雨水貯留施設の例（郡山市）

③地区単位・町内会単位での防災体制の構築

■本川や支川の氾濫、内水など、地区毎に異なる氾濫形態が避難行動に影響

→的確な避難行動に資するきめ細かな情報提供等の推進

＜主なメニュー案＞

- 支川や内水も考慮した「タイムライン」の整備・改良
- 浸水想定区域における「町内会版タイムライン」の策定・普及、訓練の実施
- 危機管理型水位計の活用による「地区ごとの避難体制」の構築
- 県管理の水位周知河川及び国管理ダム下流等の「洪水浸水想定区域」の早期公表

④バックウォーターも考慮した危機管理対策の推進

■本川上流部では、背水が支川の氾濫にも影響

→本川合流部周辺における支川の減災対策の推進

＜主なメニュー案＞

- **本川の背水影響が及ぶ区間への「危機管理型水位計」及び「カメラ」**の設置等
- 本川の背水影響が及ぶ区間に設置した危機管理型水位計と連動した地区ごとの「避難計画」の策定



本川・支川合流部(本宮市)

⑤市町村の実情に応じた減災の取り組み

→地域の特性等を踏まえた各種減災対策の推進

- 流出抑制・氾濫抑制の取組、住民参加型の防災訓練、ﾏｽﾒﾃﾞｨｱと連携した情報発信　等

※具体的な対策内容等は、今後の調査・検討等により変更となる可能性があります。

阿武隈川緊急治水対策プロジェクト

【令和6年7月末版】

～本川・支川の抜本的な治水対策と流域対策が一体となった総合的な防災・減災対策～

○令和元年東日本台風により、甚大な被害が発生した阿武隈川において、国、県、市町村が連携し、
「阿武隈川緊急治水対策プロジェクト」を進めています。

○国、県、市町村が連携し、以下の取り組みを実施していくことで、より水害に強いまちづくりを目指します。

①被害の軽減に向けた治水対策の推進　【河川における対策】　②地域が連携した浸水被害軽減対策の推進【流域における対策】

③減災に向けたさらなる取り組みの推進　【ソフト施策】

位置図



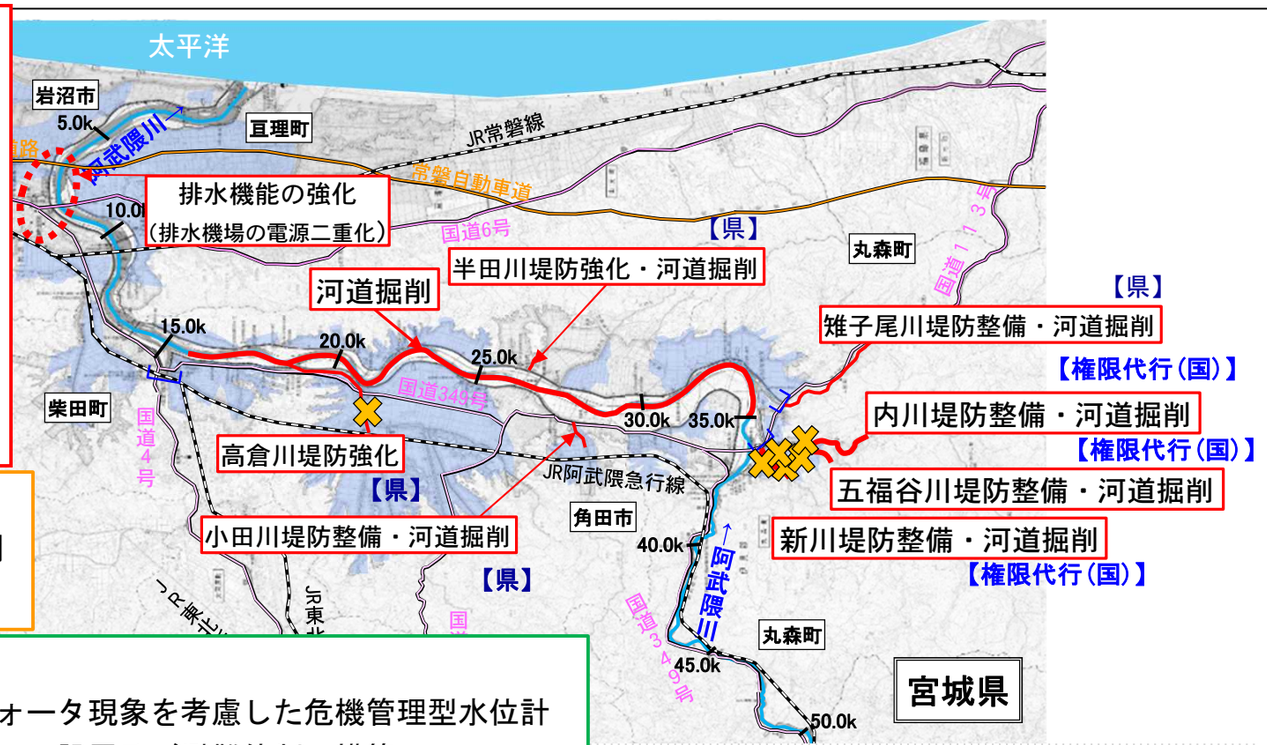


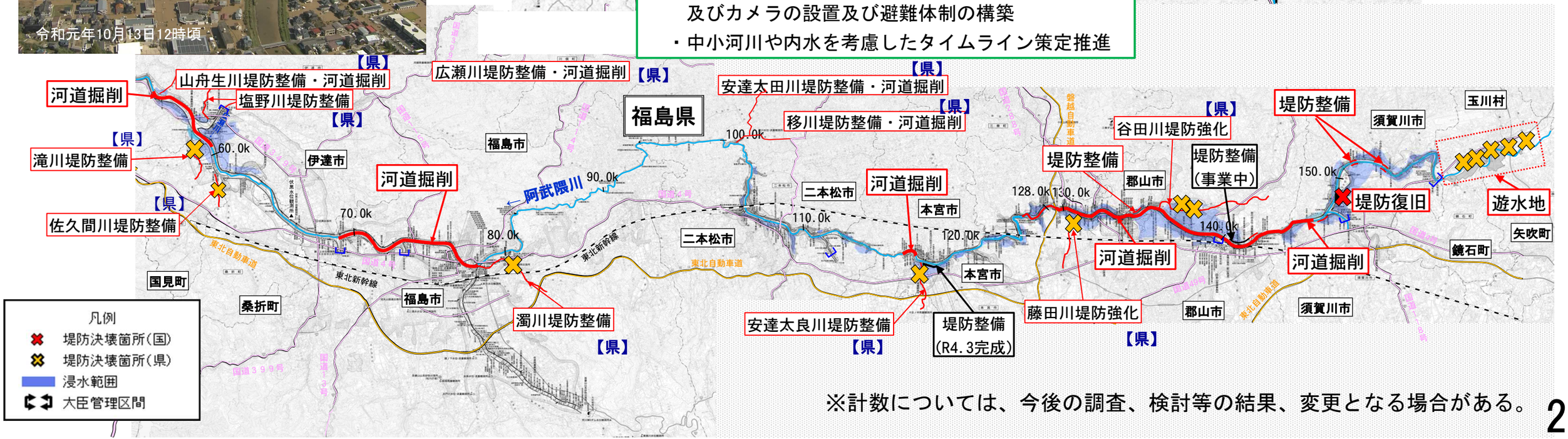
河川における対策

■全体事業費　約１，８６６億円
【国：約１，４７０億円、県：約３９６億円】
災害復旧　約　５４２億円
【国：約　２２９億円、県：約３１２億円】
改良復旧　約１，３２４億円
【国：約１，２４０億円、県：約８４億円】
■事業期間　令和元年度～令和１０年度
■目　標　令和元年東日本台風洪水における本川からの越水防止
■対策内容　河道掘削、堤防整備等

■流域における対策
・浸水リスクを考慮した立地適正化計画の展開
・一時貯留施設の設置

■ソフト対策
・バックウォータ現象を考慮した危機管理型水位計及びカメラの設置及び避難体制の構築
・中小河川や内水を考慮したタイムライン策定推進





凡例
- 堤防決壊箇所（国）
- 堤防決壊箇所（県）
- 浸水範囲
- 大臣管理区間

※計数については、今後の調査、検討等の結果、変更となる場合がある。

【参考】河川環境等をとりまく状況

動植物の生息・生育・繁殖環境　概要　阿武隈川水系

○ 源流部は、ブナやナラ類等の広葉樹林帯を流れ、イワナなど淵や瀬の連続する渓流に生息する魚類が多く生息する。
○ 上流部は、オオムラサキの生息場となるエノキ等の樹林が形成されている。流れも緩やかで、ドジョウ等の緩流域を好む種の生息が確認されている。
○ 中流部は、川幅が広くなり流れも緩やかで、天然のアユやサケ、サクラマスが信夫ダム直下まで遡上する。早瀬付近はアユやサケの産卵場となっている。
○ 下流部は、ミクリやタコノアシ、広い高水敷にはオギやヨシ等の群落が形成され、オオヨシキリやセッカ等の生息場となっている。
○ 河口部は、コウボウムギ等の植物群落、カモメ類の集団塒やシギ・チドリ類の休息地であったが、東日本大震災に伴う津波によって、砂州形状が大きく変化。

河川の区分と自然環境



源流部



ブナを主体とした原生林が分布し、渓流沿いではナラ等がみられる。瀬淵の連続する渓流にはイワナやヤマメ等の魚類が生息している。

上流部



上流部は、流れも緩やかで沿川には郡山市等の都市が形成。高水敷にはエノキ等の樹林が小面積ながらも形成されており、オオムラサキの生息場となっている。水際にはタコノアシも確認、水域では瀬淵の連続する場所にウグイ等の魚類が生息する他、ドジョウ等の緩流域を好む種の生息が確認されている。

阿武隈峡



阿武隈峡は、急流で岩肌が露呈し、蛇行を繰り返しながら流れる。数多くの奇岩が点在し福島県指定名勝及び天然記念物となっている。
河岸の樹林には、オオムラサキが生息している。水域では、阿武隈川を代表する天然のアユやサケ、ニホンウナギが、河口から83kmにある信夫ダム直下まで遡上している。

中流部



中流部は、福島市街地が形成されており、川幅もやや広くなり、流れも緩やかである。
水際にはカワヂシャ等の湿性植物やヨシ・オギ群落，ヤナギ類等が水際線を形成している。冬季にはカモ類やオオハクチョウ等の渡り鳥が飛来し、採餌場，休息地として利用している。水域では、砂礫河床となっている早瀬で天然アユやサケの産卵場となっている。

阿武隈渓谷



阿武隈渓谷は、数多くの奇岩が点在し、壮大な渓谷景観を形成している。水際にはツルヨシ群落等が見られ、部分的に形成される水際の湿潤な場所にはタコノアシ等の湿性植物が生育する。
水域では天然アユやサケ・サクラマスの遡上が見られる。

下流部



下流部は、周辺に角田市や岩沼市街地が形成され、河床勾配が緩く川幅も広い。
ミクリやタコノアシ、広い高水敷にはオギやヨシ等の群落が形成され、オオヨシキリやセッカ等の生息場となっている。
砂礫河床となっている早瀬はアユやサケの産卵場となっている。

河口部





河口部の砂地には、コウボウムギ等の植物群落が見られるほか、カモメ類の集団塒やシギ・チドリ類の休息地になっていた。
しかし、東北地方太平洋沖地震に伴う地盤沈下と津波による侵食等により、河口部周辺の砂州形状や河川環境が大きく変化している。